

〈資料紹介〉

「婦人参政史コレクション」について

助教授 関口敏美
(教育学・教育史)

「婦人参政史コレクション」は、『MF 婦人参政関係資料 I 1918～1946』(全53巻)、『敗戦時全国治安情報』(全7巻)、『太平洋戦争期内務省治安対策情報』(全8巻)、『内務省新聞記事差止資料集成』(全13巻)からなり、大正中期以降、第二次世界大戦直後にかけての婦人問題関係資料および内務省関係資料を収録したものである。

本資料は、戦前・戦中・戦後における日本の女性の諸活動(参政権運動、環境問題、消費者運動、廃娼問題、母性保護運動など)や市民生活に関する貴重な原資料を含んでおり、近代日本における女性の生活史・教育史を研究するには不可欠の資料群であるといえる。

すなわち本資料は、戦前期日本の女性生活史を研究する際に、婦人参政権運動に関連した生活問題や婦人問題に関する資料を含んでいるため、当時の婦人運動が生活問題の解決を通してめざそうとしていたものと、婦人の政治的な活動と社会教育関係諸団体に対して内務省が期待していたものがどのように結びつくのか、等の問題に関して、婦人をめぐる「生活と政治」という視座を提供しうる。

例えば、戦前の重要な婦人問題の一つに女子高等教育要求運動がある。

この問題は、婦人参政権要求運動や生活改善運動とも深い関わりがある。当時生活改善運動に女性指導者として駆り出された女子教育関係者には、家政学に関する専門学校創業者や校長を務める者も含まれていた。

彼女たちは、高等教育要求を一部の女性エリートのみに関わる問題としてではなく、あ

る者は婦人参政権要求運動との関わりで、ある者は生活改善運動との関わりで、広く女性の教育機会を拡張する問題ととらえ、そこから婦人生活の向上と婦人問題の解決を図ろうとしていたのである。

本学ではすでに MF(マイクロフィルム)版の『明治期婦人問題文献集成』、『大正期婦人問題文献集成』を所蔵しているが、本資料は、これらの婦人問題関係資料をさらに補強するものである。

特に本資料は、戦災による焼失を免れた婦人参政権関係資料として、婦人参政権獲得をめぐり、婦選運動に関連した生活問題や雑誌、婦人関係団体に関する貴重な資料を多数含み、すでに所蔵する婦人問題関係資料の手薄な領域をカバーしている。

このように本資料は、女性生活史研究・女子教育史研究・婦人問題史研究・家族史研究等の研究を推進する際に不可欠の資料である。